

# なきごえ



1984

9

大阪市  
天王寺動物園協会



# 動物と私

鳥居 敏男



私も子どもの頃は、近所の子らと同じように大きなビンにスズムシや金魚を飼ったものです。しかし、スズムシの雌が雄を食う様を見るにつけ、またきのう夜店の金魚すくいでもらった金魚が翌朝にはもう死んでいる様を見るにつけ、動物を飼いたいという欲求は薄れていったようです。

そのまま中学時代は、特に動物に関心を抱くことなく通り過ぎていきました。高校時代は、クラブがワンゲルであった影響で自然保護に興味を持ち始めたものの、それとあまりにも漠然としたとりとめのないものである上、生物はむしろ苦手な科目という始末でした。

動物と私のつながりが始まったのは大学に入ってからだと思いますから、この誌面に今まで登場された方々の中では一番遅い方ではないでしょうか。大学時代の前半は高校の延長でよく山に登りました。ただ、たいていひとりか、多くて4、5人のメンバーで歩くことが多かったせいも、思いがけないところで、ぼったり野生の動物たちと出会うことができました。南アルプス北沢峠の山小屋の石垣で出会ったオコジョ、北アルプス常念岳で出会ったライチョウの親子、六甲のイノシシや比叡山のシカ、八ヶ岳の林道で出会ったカモシカ…。そして一番印象に残っているのは、白山でのクマとの出会いでしょう。今からちょうど3年ほど前の8月下旬のとても暑い日でした。私が少々バテ気味で稜線を歩いていると、突然眼下のかん木がガサガサと揺れ、一頭のツキノワグマが現われたのです。距離はおおよそ70m くらいで、そんなに大きな個体ではなかったのですが、やはり突然のことでびっくりしました。クマの方とは

言えば、私のことなどおかまいなしに、ゆうゆうと餌をあさり、かん木に上ったり下りたりしながら木の葉の影に身をくまませたのでした。その間何分だったか、何秒だったか今となっては覚えていませんが、相手がこちらに興味をもっていないことがわかると心にゆとりができたのか、その動作のひとつひとつがユーモラスに感じられるとともに、「びっくりさせやがって。おまえはここにおったんか。まあ元気で生きるんやで」という言葉をかけてやりたい気持ちになったものです。

大学時代の後半は、あるきっかけから、かもしかの会で野生動物と人間の共存という問題を考える機会が得られ、生態的なことはほとんど知らないものの本格的にカモシカをはじめとする動物たちとのつき合いが始まりました。ポリネットによるカモシカの食害防除作業は、みなさんもう御存知かと思います。実際に山に入る機会が多い活動だけに、カモシカにも何度か出会いました。しかし、正直言って一度もかわいいと思ったことはありません。人間と同じ生きものがそこで生きているんだ、という目で見られないのですから、ある意味では非常にクールだと思います。

一口に野生動物との共存と言ってもいろんな要因がからみ合い、まことに複雑です。単に、何をもって共存というのか、という問題ひとつとってみても百人百様の考え方があって良いでしょう。要は個々人の価値観に帰結する問題である、といってしまうまでもかもしません。しかし、どんな価値観が存在しようとも、山で出会った動物たちの瞳が孤高に輝き、一生懸命生きようとしている姿を見たとき、目をそらすことのないよう常に一歩さがって彼らのことを、そして私たちのことを考えていきたいものです。

動物と私、最近ますますクールでそしてホットな関係になりつつあるようです。

(環境庁自然保護局鳥獣保護課)

## なきごえ9月号もくじ

動物と私.....	2
ひさびさのエランド誕生.....	3
動物園グラフ・動物園日記.....	4・5
白山の動物.....	6・7
中国との動物交換(下).....	8・9・10
動物園ニュース.....	11

## 表紙の写真説明

“ゴリラ”

西アフリカの熱帯森林に住むゴリラは霊長類中最大で、体重が200kgをはるかに超えるものもいます。しかし、体に似合わず大変神経質な面も持っています。

(撮影：大野 尊信)



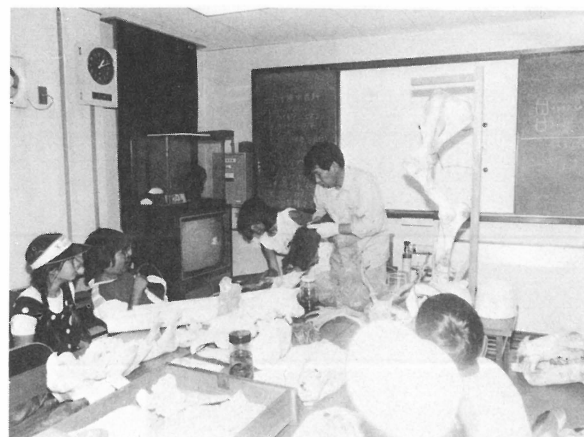
## “ひさびさのエランド誕生”

8月5日、エランドの赤ちゃんがひさしぶりに生まれ順調に育っています。母親の“みさき”はベテランママ、子供もたいへん元気でカモシカ園の人気ものになっています。(撮影：神原安昭)

# 動物園グラフ

## “サマースクール特集”

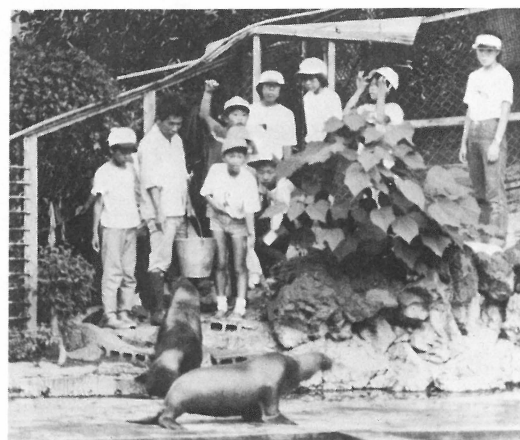
今年で10回目を迎えたサマースクールは、7月22日～7月31日までの間、250名の小学生が参加して開かれました。3組10班に分かれ、ボランティアの指導のもとで、各組3日間にわたって行われたサマースクールをグラフでご紹介しましょう。



「ムササビはリスの仲間です。後足と前足の間の膜を広げて夜の空を滑空します」



「さあ、ウサギを抱いてみましょう」  
「ウサギを抱く時、耳を持ってはいけませんよ」



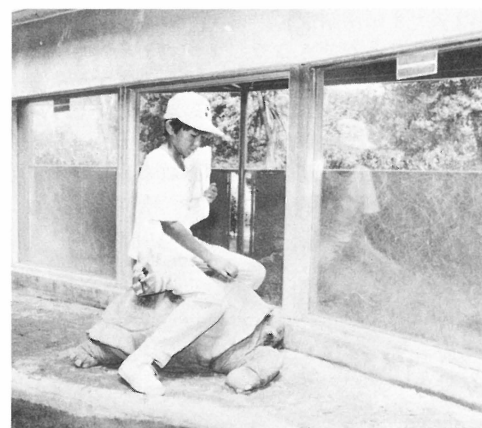
「アシカのエサはアジです。まだ子供のアシカは陸上に呼びあげてエサを与えています」



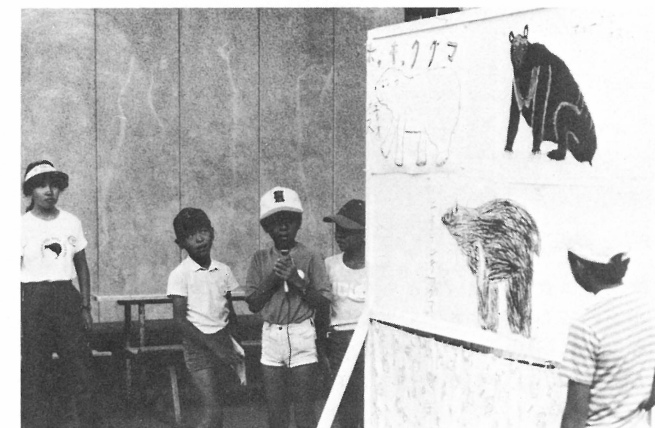
「ライオンのエサは馬肉と鶏肉です。食べやすい大きさに切って与えます」



「ゾウは暑い時、鼻で水を吸いこみ、自分の体にかけます」



「とても大きなアルダブラゾウガメ、背中に乗っても大丈夫です」



最終日に勉強したことを各班ごとに研究発表しました。  
「ホッキョクグマは……」

## 7・8月の動物園日記

- 7 / 9. ミヤマハクカンが5羽ふ化しました。
- 7 / 12. コシアカツバメのヒナを3羽保護しました。シュバシコウの1番巢のヒナが1羽巣立しました。
- 7 / 13. クロサイの雄“サイ王”が血尿を排泄するため治療を始めました。
- 7 / 14. クロサイ“サイ王”が急死しました。オーストラリア・タスマニア州首相一行50名が来園され見学されました。
- 7 / 16. 定例飼育研究会が行なわれました。
- 7 / 21. フクロウの性別鑑定を行ないました。

- 妊娠後期にあるシマウマの雌“レディ”が雄から攻撃をうけるため屋内に隔離しました。
- サマースクールが始まりました。
- 7 / 22. オオルリの展示を小鳥舎にて開始しました。
- 7 / 23. ハリモグラの採食が暑さのためかよくありません。ホッキョクグマに氷柱をプレゼントしました。
- 7 / 24. アカノドカルガモが水禽放養舎にて抱卵中でしたが、同居中のアカハシリユウキュウガモがいたずらするため取り上げて人工ふ化させることにしました。

- 7 / 25. 今年5月生まれのタヌキの子6頭の性別チェック、体重測定、個体識別およびワクチン接種を行ないました。
- 7 / 26. エランドの雌“ミサキ”の出産が近いため屋外放飼を続けることにしました。
- 7 / 27. ヒグマの雄が下痢するため治療を始めました。
- 7 / 28. キーウイ3羽の体重測定を実施しました。
- 7 / 29. 昨年生まれのオウサマペンギンのヒナの成鳥羽への換羽が80%終了しました。
- 7 / 30. サマースクールが本日で終了しました。
- 7 / 31. ハリモグラ舎にクーラーが設置され、本日より運転が始まりました。

- 8 / 1. 夏の動物園病院実習がまず2名の実習生から始まりました。
- 8 / 2. ハリモグラの食欲が上昇中です。
- 8 / 3. コサギが3羽ふ化しているのを確認しました。ふ化後約1週間と思われます。シマハクカンが1羽ふ化しましたが、すぐに死亡してしまいました。
- 8 / 4. ウスミドリトビヘビが1頭入園しました。
- 8 / 5. エランドが出産しました。オウサマペンギンが産卵しました。
- 8 / 10. クマ類の検便を行ないました。
- 8 / 11. 5日とは別のオウサマペンギンが産卵しました。



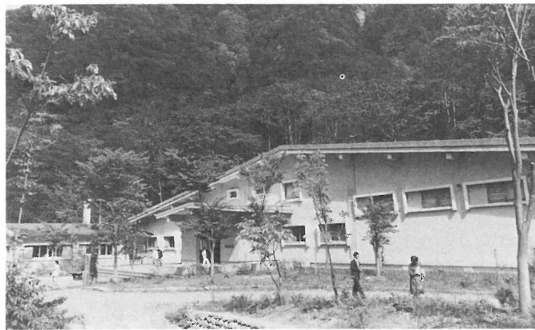
# 白山の動物

## 野生動物を観る

水野昭憲

### ○白山の雪と動物

豪雪地帯北陸では、毎年その季節になると雪が多いとか少ないとかで一喜一憂します。昭和59年の冬は3年ぶりの大雪で、2月には私たちのフィールドである石川県吉野谷村の中宮温泉周辺で約350cmの積雪がありました。さらに3月まで続いた寒波のため春の到来が遅れ、そこへの車道が開通したのは5月中旬でした。このあたり、白山山ろくの標高500m前後では、年間の最深積雪が多い年は3m以上、少ない年では1mくらい。また積雪期間は60日くらいの短い年から150日も続く年まで、雪の量・期間ともに年によって大きく変化します。この雪はそこに生息する動物たちにどのような影響を与えているのでしょうか。



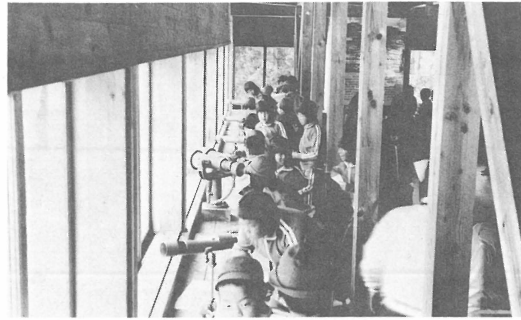
白山自然保護センター中宮展示館

ニホンザルやニホンカモシカなど草食動物にとって、冬は食物の量・質ともに不足する時期です。サルをみてもオトナメスで平均体重約13kgのものが、冬の間には約10kgまで減少します。しかし雪の下では、植物が極端な寒気や乾燥にさらされないで、ササ、ヒメアオキ、ハイイヌガヤ、カンスゲといった常緑のものが生きていて、冬でも少し暖かい日があると雪に割れ目ができれば、その植物を採食することができます。このような雪の割れ目やなだれの多発する急斜面は、白山山系の中でも手取川の支流である尾添川流域に多く、その地域がサルやカモシカの高密度地域にもなっています。

雪が地表をおおってしまうため、十分な食物を確保できず、生きるか死ぬかの厳しさを強いられる一方、雪が多すぎて人間が生活するには適さないで、人間との衝突からまぬがれて動物が生きていけるという利点もあります。

### ○アニマル・ウォッチング

白山山ろくのようなブナ、ミズナラを主とした落葉広葉樹林では、冬に木の葉が散り、地表が雪で白くなると、動物の姿が見やすくなり、野生動物観察にはまたとない時期となります。



ブナオ山観察舎

白山国立公園の入口、石川県尾口村一里野温泉から約1kmのところ、動物を野生のまま観ようと建てられたブナオ山観察舎があります。ここは冬に車で乗り入れできる最奥であり、国設白山鳥獣保護区、また自然保護のための県有地の周辺部、つまり野生動物の聖域の最前線にもあたります。観察舎へ来て、木の葉が茂っていない季節であれば、尾添川をはさんだ対岸のブナオ山南斜面に、まずニホンカモシカの姿を見出すことができるでしょう。また真冬から早春にはニホンザルの群れもよく見られます。

カモシカは白山の石川県側に2000~3000頭生息すると推定されていて、地形の急峻なこのあたりに最も密度が高く、1km<sup>2</sup>あたり5~8頭を数えられます。



一本角のニホンカモシカ

サルはこの山系に10群約500頭が分布していて、そのうち全く人馴れしていない3群がブナオ山を冬の行動域に取り入れています。

寒風の中で、雪の上に出ているかん木の小枝をかじるカモシカ、今にもなだれになりそうな雪の割れ目へ入ってススキやスゲの芽を引き抜いて食べるサルなどは、野生の力強ささえ見せてくれます。車止めから約20分雪の上を歩いてきた人たちが、観察舎の中から望遠鏡で2時間、3時間と動物の動きを観察しています。これをアニマル・ウォッチングといきましょう。

近年バード・ウォッチングが盛んになり、多くの人が鳥を求めて自然の中へとび込んでいくようにな

りました。私もそのような人と出会う機会がよくありますが、バードウォッチャーが何をしているのか気になることがあります。見たことがないか、珍しい鳥を探しては図鑑と総合合わせをしてチェックリストを埋めている人が多いようです。もっと身近な鳥を対象に、ゆっくり生態を観るのもよいのではないのでしょうか。

アニマル・ウォッチングにブナオ山へ来ては図鑑は必要ありません。多くの観察者は、じっと望遠鏡をのぞき、動物の行動の美しさと、その動きの中にかいま見られる、生きるたくましさを感じ取ろうとしているのです。

### ○野猿公園で



冬の野猿公園

白山でもう一つの動物観察の場は、中宮温泉の近くにあるジライ谷野猿公園です。5月から11月まで、カムリA群・C群と名づけた群れが餌場へやってきて来園者を楽しませています。ここでは、雪が降って道路が閉鎖されると、野猿公園も閉鎖され、サル達は人間の与える餌を探ることなく雪山で冬を越します。昭和59年の冬は特に長い冬だったのに加え、58年秋にはサルの主食であり栄養と体力を貯えるのに重要なブナが全く実を着けず、他の果実類もおお



ササを採食するニホンザル

むね不作でした。この二つの条件が重なったために、体力の弱いサルで冬を越せなかったものがあります。昭和58年秋にはカムリA群105頭、C群35頭といたものが、59年春にはそれぞれ70頭と21頭に減りました。オスの離群が少しはあったとしても、めったに群れを離れていくことのないメスや仔ザルで姿を消したものは、栄養失調などで死んだものと考えられます。

特に前年生まれのアカンボウは、両群に計20頭いたものが5頭しか残っていません。また20歳に近いとみられていた老いたメスもほとんど姿を消していました。このような大量死は、この野猿公園が餌付けを開始した昭和41年以来初めてのことでした。

この冬の厳しさはある程度予想はしていたのですが、私たちは、餌場へ行くことが容易でないこともあり、例年どおり約5カ月間給餌を中断しました。それに対し何人かから、冬にも餌を与えてサルを助けてほしいとの意見が寄せられ、新聞等でも話題となりました。しかし私たちは、この野生のサルを餌付けによって人間に頼らないと生きていけないサルにはしたくありません。死んでいったサルもいますが、厳しさを耐えぬいたサルが再び餌場へ来ています。仔ザルのかわいさにほほえみかけると同時に、この生きるたくましさをこそ観察してほしいのです。人の与える食物に頼りすぎると、来園者や周辺の人家、田畑にいたずらしたり、人に物乞いするようになります。全国に20カ所余りある野猿公園の中で、そのような悪さをするという問題をかかえていないところはほとんどないでしょう。ジライ谷野



残雪の上に出てきたカモシカ

猿公園では今のところこうした問題は起こっていません。そのかわりというか、餌場へサルがやって来ないこともよくあります。特に、軟かい植物の豊富な梅雨期と、ブナ、ヤマブドウなどの実の豊作の年の秋には、餌場へ来るよりも山で採食することが多くなるからです。昭和58年はブナの実が不作だった年で、9月、10月に52日も餌場でサルを見ることができたのですが、その前年のブナが豊作であった秋には2カ月に6日しか姿を見せませんでした。野猿公園の来園者の中にも、何回かやってきて初めてサルを見た感激する人もいます。

ブナオ山のカモシカにしろ、ジライ谷のサルにしろ、一頭あるいは一群の動物を1日中見ているとあきないといえます。私たちとしては、雪の中でどのように厳しさに立ち向かっているのだろうかなど、動物の姿を通じて、ここの自然と動物の適応にまでも考えをめぐらしてほしいと考えています。

(石川県白山自然保護センター)



## 中国との動物交換(下)

### ○上海動物園繁殖センター

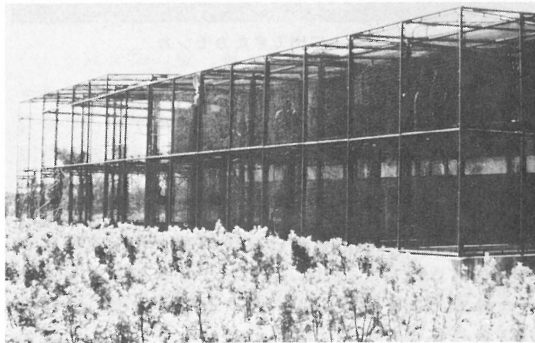
ここは、上海動物園より2kmほど離れたところに面積4ヘクタールで1978年に創立された。中国の一级保護動物とされる動物の繁殖を手がけている未公開のところで、その主力はやはり、ゴールデンターキンとキンシコウであった。ゴールデンターキンは雄2、雌4

頭が収容され、赤ちゃんも見られた。キンシコウは8頭を収容しうち雄が3頭、雌5頭であった。雌のうち現在1頭が出産まじかというお腹をしていた。キン



キンシコウ

シコウの飼育の注意点としては、餌が木の葉(ニレ、ネズミモチ、マサキ)が主で、澱粉類は多く与えない方がよいこと、ニレを与えるときは、枝を与えないこと。枝の皮を好むので胃内で毛球症を起こしやすいとのことであった。



キンシコウの特別飼育場

このサルは跳躍力が大きいので檻は大きなものが必要とのことで、実際繁殖場を見た檻の高さは5mくらいあった。9月から10月が交尾期で春に出産する。雄の比率が多いとうまくいかない。あまり交尾しすぎると流産することも多いので、交尾期のみ雌雄をいっしょにしておく期間がポイント。他の時期は別居させているとのことであった。また、大阪でフランソワルトンの飼育がうまくできているのだから、このキンシコウも十分飼えるとのことであった。

その他にここでは、揚子江鱧を80年からふ化させ

ており、82、83年とふ化が続いており、すでに60センチ大の4才もの6匹の他、約19匹が水漕にかわっていた。

その他にこのセンターで飼育されているものは、河南虎、ウンビョウ、レッサーパンダ、オオヤマネコ、フランソワルトン、タンチョウ、マナヅル、コウノトリ、ナベヅル、クロオオカミ、チャイロカケイ、ベニジュケイ、カボット、などであった。

マナヅルは2番、タンチョウ2番、コウノトリ1番とペアリングさせている

他に広いオープン放飼場には繁殖したと思われるタンチョウ4羽、マナヅル3羽、ナベヅル4羽などが混合飼育されていた。

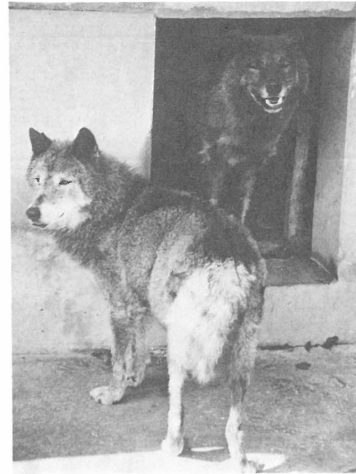
### ○南京動物園

ここは南京市内の広大な玄武湖公園(444ha)の湖の5つの小島の1つにある。面積は6haと小規模の動物園である。動物の種類は151種、1,086点の動物を飼育し、中国の一级の保護動物としては、ジャイアントパンダ、キンシコウ、タンチョウ、東北虎、ヨウスコウワニ、白唇鹿、クロハザルを飼育している。パンダは2頭飼育中だが檻飼いで、現在放飼場を建設中とのことであった。

東北虎は7頭いて、昨年、今年と順調に繁殖している。大型の草食動物といえば、キリン1頭、カバ1頭、ラクダ2頭というようなもので、ゾウ、サイ



ラクダ舎



クロオオカミ



クマの放飼場

などはいなかった。キンシコウは1頭のみ飼育中で、他に珍しいものといえばゴマフアザラシが2頭飼われていたことである。

またマナヅル、タンチョウも各3羽飼育していた。全体に旧来の檻式の動物舎で老朽化していた。ここは名古屋市と友好都市を結んでいて、キリンの他にダイアナモンキーが贈られて展示されていた。水が豊富だから中国産の淡水魚を展示するようにしたらいいのにと感じた。

### ○北京動物園

北京の中心天安門広場から30分くらいの市街地に総面積70haの広大な動物園で、1906年の開園という。創立したときはもっと小さく1.5haしかなく清朝の個人の動物園として発足したものであった。そして33年前の解放時には20種ちょっとしか動物はいなかった。現在578種の動物があり、公開展示されている動物のうち70%が中国の動物で、残り30%が外国産のものである。

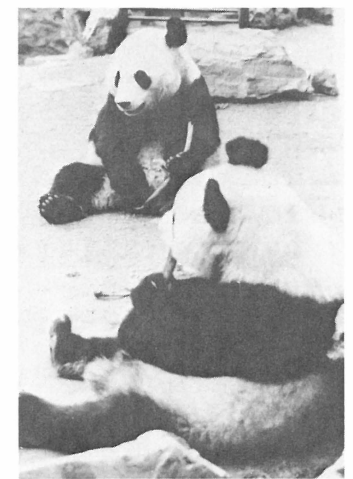
面積的には上海が72haとほぼ同じであるが、飼育動物の種類では上海より236種も多い。これはたぶん両生、爬虫類がかなりの数をしめるのではないと思われる。全従業員の数も上海とあまり大差のない650名ばかりなのに多くの動物を飼っていることもあって、キーパー数では、200名と上海より80名も多い。



海牛館

現在の獣舎は解放後にすべて作りなおしたもので、毎年のように動物舎の建て直しが進んでいる。すでに海牛館、両生爬虫館、鶏舎、小獣舎、サイ舎などが新しくなっており、現在は、ヒョウなどの中型猛獣舎と鹿、ヤク、羚羊などの草食獣舎を建築中で、ここも見学させていただいた。また、子供動物園も建設中でこれは李園長が上野動物園を見学して決心したということで6月1日の児童節にはオープンさせるということであった。

この動物園の繁殖の成績も良好で中国産の動物ではキンシコウ、ターキン、ヤク、カンムリシカ、パンダなどは毎年繁殖している。また外国産の動物では北極グマ、マナティ、ゴリラ、カバ、サイ、キリン、シマウマ、バクが繁殖している。パンダはこれまで19頭が繁殖し中国各地や、海外の動物園に贈ら



ジャイアントパンダ

れた。1963年からパンダの自然繁殖が10回あり、7頭が失敗している。78年からは人工授精を行ってきた。これにより9回妊娠に成功し現在5頭が出産、

育成している。昨年出産したものは現在8ヶ月になっていて動物病院で人工哺育中とのことでした。(我々には見せてもらえなかったがすぐ後にレーガン大統領夫人には抱かせている風景をテレビで見た。)

展示されているパンダは4頭で、若い2頭は野生のものを捕獲してきたということで1才~1才半のちょうどやんちゃ盛りで遊具の上で遊んでいたが成獣2頭は大きい放飼場で身体中泥をつけてねそべっていた。これが人工授精児たちの親たちであった。

北極グマは2番があり、それぞれ2頭ずつ繁殖している。子供はいずれも咬殺、肺炎の予防のため出産直後にとりあげ人工哺育しており、これがうまくいっているようだ。またシマウマやチベットノロバ、マエガミジカ、クチジロジカの繁殖が良好であった。さらに野生のフタコブラクダを1頭飼育中であった。これは他にはウルムチに1頭しかいないということであった。

その他ヤク、ターキン、金絲猴、ゴールデンキョットの亜種もいるし見る動物が多すぎて、多すぎて……。ツルのコレクションもまたすばらしい。タン



ジャイアントパンダ

チョウ、マナヅルはともかく最も貴重なソデグロヅルにオグロヅルが数羽ずついて繁殖に取り組んでいるとのことであった。また、一般公開してないたった1羽のトキを見せていただいた。日本のトキのような美しい色ではないが、やはり感激したがいにくフラッシュの電池がきれにかけており、十分な光量がなくよい写真とはならなかったのが残念であった。アメリカとの国交回復記念のジャコウウシやインドサイ、クロサイ、シロサイと3種のサイも立派であった。

動物病院の見学をさせていただいたがここでは人工哺育中のゴリラの子供を見せていただいた。

海牛館ではマナティの親子3頭がいて人気を集めていた。人工海水を還流させている大プールは東向きで東側は総ガラス張りの明るい動物舎であった。しかし上からだけの観覧のようで、水中での動きが見られる水族館式になっていないのが残念であった。ちょうど餌の時間であったが白菜、青菜、干し人参など1日に1頭あたり50kgを四角い木ワクの中に浮かしてこの餌代が大変だとのこと、また次に繁殖したら中国では他に飼う施設を持っている園もなく、飼育管理費もかかりお手上げだと李園長は苦笑された。

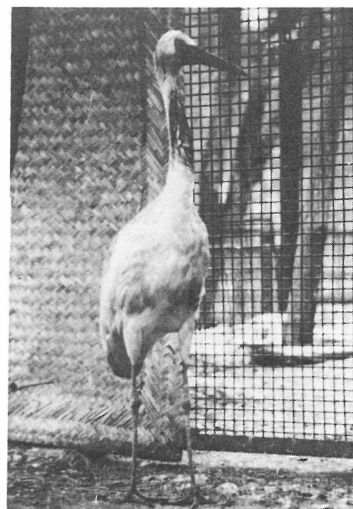
次に両生爬虫類館のことですが、大中小の展示室が90室もあり、大は吹き抜けになったニシキヘビ舎やワニのプール、海ガメのプール、小はトカゲやカエルの小部屋まであり2階建てになっていた。

興味があったにもかかわらずあまり多いので時間的にもかけぬけるような見学になってしまいよく見られなかったのが残念であったが、目をひいたのが中国特産の鱗蜥で人魚のような姿をしていたことやかなり多くの毒ヘビを集め、ヘビやカメ、トカゲなどの展示室は、いずれも中国独特の石を使った盆景

をとり入れており、その石の上や下に木のかわりにヘビやカエルがとまっているという感じでさすが盆栽の本場だと恐れ入った次第です。

ここの管理は17名のキーパーが担当しているとのこと、さてこんな立派な展示館にも園長さんの悩みはありました。

北京のような寒いところですからこんな大きな建物だと、暖房費がえらく高くつくこと、もちろん国産の石炭を使ったスチーム暖房ですが、それに両生爬虫類の補充がなかなかしんどいということ、とにかく90室を常時満杯にしておくことは実に大変なことですし、さらにこれらの両生爬虫類の多種類の餌の供給の問題で「たいがい荷が重い」と園長さんは肩をすくめておられた。



ソデグロヅル

こともたびたびだそうで、一昨年もパンダを東京へ贈ったときに同行して日本に来られた。

成功ばかりでなく、失敗も多い。理論も大事だが、実践も大切だという園長さんの言葉が今も耳に残っている。

調理場を見学させていただいたが、大きなスペースで飼料倉庫ではパンダやクマなどにやるために麩などを原料としたまんじゅうを大量に製造していた。

動物園の餌代は1日1,000円(日本円で12~13万円)ということであった。魚はイシモチが主で、年間3万kg、肉類は牛肉で6.5万kgを消費している。果物はリンゴが主でこれはホテルで出たリンゴよりずっと質の良いもので試食させてもらったら大変おいしいものであった。 完

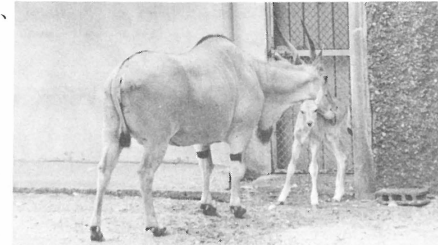
(文：樽本 勲・写真：農本武志)

李園長は動物にたずさわって30年になるとのこと。大学で動物学を学んでから、飼育係、班長などをへて主任、園長となられた動物園の生えぬき。アフリカにも動物の購入に行った

## 動物園ニュース

### § エランド誕生

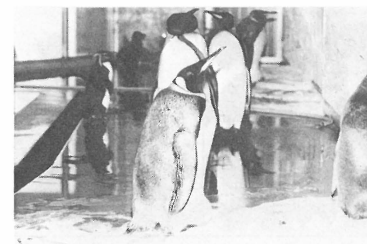
8月5日、カモシカ園でエランドの赤ちゃんが生まれました。母親はみさき公園で生まれ1972年に来園した“みさき”で、過去1973年から3年連続出産しましたが、その後オスが死亡し、しばらく出産はみられませんでした。1982年にオスの“タロー”が来園し、昨年10月にひさしぶりに出産しましたがその時は残念ながら翌日死亡しました。



今回は、放飼場で夜の間に出産し、朝発見したときには体毛もすっかり乾いていました。元気なメスの赤ちゃんで、3日目から寢室に慣れさせるために親子で屋内に収容していますが、今回は順調に成育しています。放飼場でかわいい赤ちゃんの姿をご覧いただけるのもまもなくでしょう。

### § オウサマペンギン産卵

8月5日、オウサマペンギンが産卵しました。このメス“赤”は今春にも産卵した個体で、この春は惜しくもヒナはふ化後24日で死亡しました。今回はペアが変わり、オスは“白”になりました。一方、前回のペアのオスであった“黒”は、昨年産卵しヒナを無事育てたメス“緑”とペアをつくり、この“緑”が8月



11日に産卵しました。当園で2羽のオウサマペンギンが同時に抱卵しているのは初めてのことです。うまくいけば9月終わりから10月初めにヒナがふ化することでしょう。

一方、昨年8月ふ化したヒナは、7月中旬から換羽がはじまり、8月初めにはヒナの綿羽もすべて抜けおち、親と同色の羽毛となり見がえるようになりました。

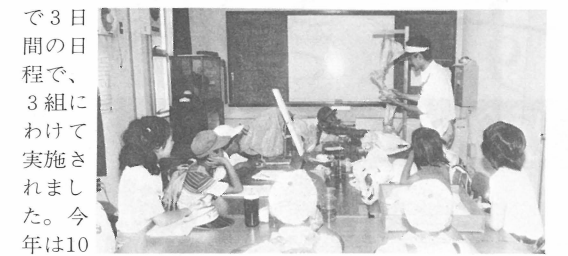
### § サマースクール開講

恒例のサマースクールが7月21日から7月30日まで

### 現在の飼育動物数

(1984年7月31日現在)

哺乳類	10目	99種	402点
鳥類	20目	194種	638点
爬虫類	3目	36種	116点
計	33目	329種	1,156点



で3日間の日程で、3組にわけて実施されました。今年10月10日の日程で、合計510名の子供たちが参加し、ボランティアの皆さんの指導のもと楽しみながら勉強をしました。今夏は例年になくきびしい暑さのため心配されましたが、子供たちは暑さにも負けず、動物舎の見学、餌作りの実習、ウサギやヤギの抱き方の講習、動物の骨格の勉強などをし、3日目にはその成果を研究発表しました。



なお、研究発表のために子供たちが作製した作品は、8月6

日から9月9日まで、北園展示館と地下道の掲示板に展示されました。

### § タスマニアデビル今秋来園

タスマニアの悪魔と呼ばれるタスマニアデビルが今秋来園することになりました。7月12日に大阪を訪問されたオーストラリア・タスマニア州のロビン・グレイ首相が大島市長に約束されたもので、当園ではサイ舎近くに展示する予定で準備をすすめています。7月14日グレイ首相一行50名が来園され、小雨の中園内を興味深げに見てまわられました。

タスマニアデビルはタスマニア特産の動物で、カンガルーやコアラと同じ有袋目の動物で、体長約70cmぐらいの一見子グマのような動物ですが、メンヨウやネコなども襲う夜行性の肉食動物です。

### \* 休園日のお知らせ \*

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。11月までの休園日は下記の通りです。

9月17日(月)、10月15日(月)、11月19日(月)、開園時間は午前9時30分~午後5時で、午後4時に切符売止めになります。



# すてき満喫

## 近鉄クレジットカード



- 全国の近鉄百貨店グループ・都ホテチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
- カードをご提示いただくだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
- 繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
- 入会資格は20歳以上で2年以上お勤め、または自営の方です。

**近鉄百貨店**

お申込み・お問合せは各店クレジットセンター  
アベノ店・上本町店・東大阪店・奈良店・西京都店・東京店

近鉄百貨店グループ

四日市近鉄・京都近鉄・岐阜近鉄・枚方近鉄・和歌山近鉄・近鉄松下(徳山)・別府近鉄・三交百貨店(松阪・伊勢)・近鉄東海ストア

## 天王寺動物園の機関紙

月刊 **なきごえ**

ご購読をお奨めします。

年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、**大阪市天王寺動物園協会**へ

TEL 06-771-0201

ひかりのくに

監修・阪口浩平  
指導・宮武頼夫

オールカラー

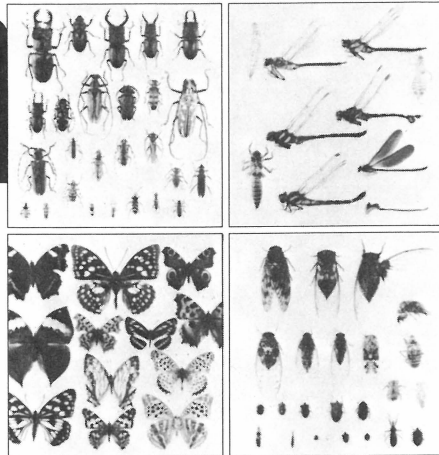
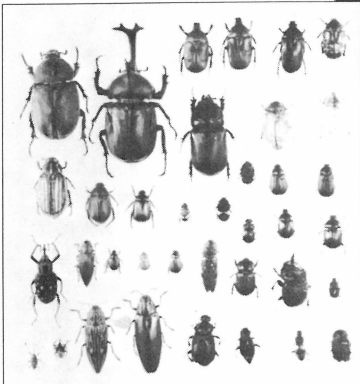
# むし

くらしとかいかた

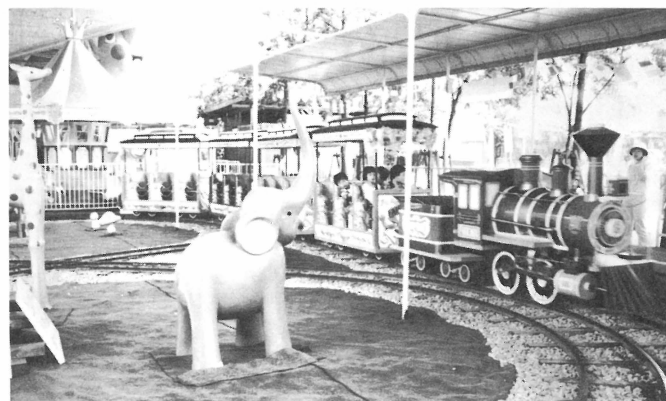
今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。  
きつとすばらしいことに出会えるはずだ。

B5変形 84ページ 580円

ひかりのくに株式会社  
〒543大阪市天王寺区上本町3-2



## たのしいのりもの、が待っています。



1人1回  
100円  
(1才まで無料)

団体割引  
(30人以上)  
……1割引

久竹娛樂株式会社  
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

## 世界初の最高感度

(カラープリント用フィルム)

# 1600 新登場!

## カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
三番街店 ☎372-5031



# フジカラー HR 1600

ISO1600/33° 135-24枚撮

天王寺動物園

# ZOO GUIDE の

ご購読をおすすめします  
(1冊 ¥450)  
園内各売店にあります

あらゆる動物に愛の手を!

社団法人 大阪動物愛護会

全国の愛犬家の共感を呼ぶ  
無比の愛犬歌集 (絶賛再版)

# 歌集 犬の歌

動物文学会主宰  
平岩米吉著 (直接申込で)

著者が、約40年の間に、共に暮した70余頭の犬の生と死を歌った419首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る写真47図を収め、犬の一生の生態写真集でもある。

動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2  
電話(03)717-1659・振替東京5-9800

日本図書館協会選定  
全国学校図書館選定

# 狼

その生態と歴史  
犬科生態研究所長  
平岩米吉著

A 5判・320頁・  
口絵挿絵等140図  
定価2800円・〒300円

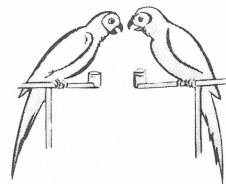
待望の日本狼の正史ついに完成!  
〔改訂四版〕

☆犬科動物の研究者として、当代随一の著者が、数十年にわたり収集した正確な資料を、生態学の目をもって描いた空前の書。  
☆日本狼は、大口の真神とあがめられた古代より、のちには病狼と恐れられ、やがて絶滅に至るまでの経緯を詳述。

## 主な目次

- |            |          |
|------------|----------|
| 序狼への幻想と現実  | 5 狼の伝説   |
| 1 犬科の分類と解説 | 6 日本狼の特徴 |
| 2 犬と狼の関係   | 7 日本狼の絶滅 |
| 3 日本狼の歴史   | 終狼を飼った人々 |
| 4 狼狩の記録    |          |

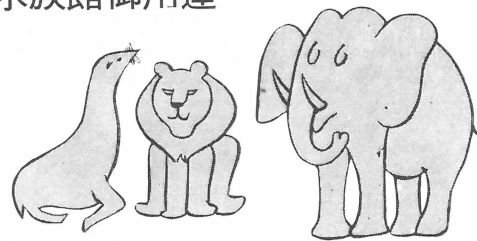
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地  
振替・東京4-165425



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

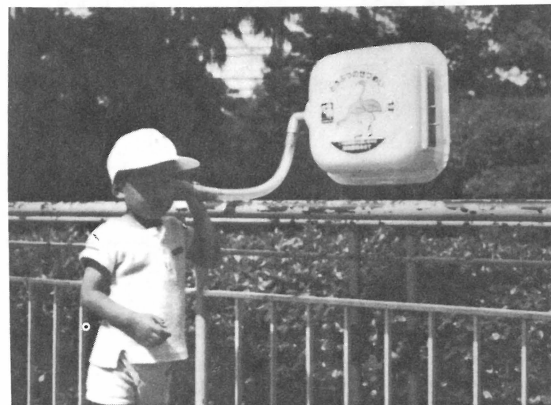
- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517  
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494

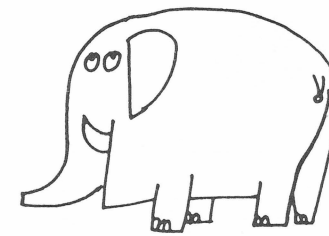
たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

## 天王寺動物園内

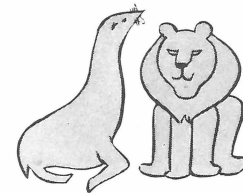


## 南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶白山町6-74  
電話(06)771-7110番

園内でのお写真は…  
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!

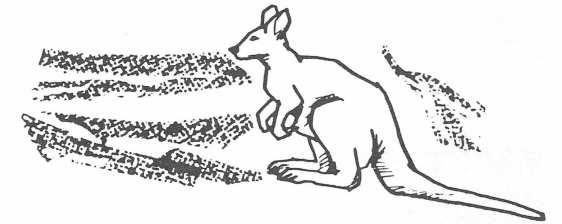


◎随時係員が待機しておりますので説明に伺いました際は、よろしくお願ひ致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。  
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社  
TEL 06-856-7444



……………ぼっちゃん  
……おじょうちゃん  
どうぶつえんへ……………  
いらっしやいませ……………  
ごきゅうけいは……………  
おしょくじは……………

## 動物園内北園 中央売店

☎(06)771-0973



新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト  
の名コンビ

自然の  
おいしさ



# 雪印ヨーグル

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

なきごえ 昭和59年9月10日発行(毎月1回10日発行)

第20巻 第9号(通巻229号)

編集 / 大阪市天王寺動物園

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

電話 大阪(06)771-0201

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)

編集委員

土井 良彦・伊東 重朗・小出 雅三・樽本 勲・中川 哲男・前田 豊彦
宮下 実・長瀬健二郎・榑原 安昭・森本 委利・大野 尊信・葭谷 文彦
農本 武志・野口 秀高・仲谷 登・柴田 総・兼坂 雅浩・堀 弘
大川 光雄